

研究に関するご協力のお願ひ

当院では、手術中の検査目的に患者様から採取した体腔液検体を用いた研究を実施しております。この研究に関して不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には、以下にご連絡いただきたいと存じます。なお、研究結果がすでに医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合は、データを取り消すことは困難な場合がありますので、ご了承ください。

2026年1月

〒960-8530 福島県福島市八島町7番7号
福島赤十字病院 病理診断科 担当：石川 梓
電話：024-534-6101（代表）

【研究課題名】

術中の迅速体腔液細胞診検体における液状化検体細胞診 Liquid based cytology (LBC) の導入に向けた検討

【研究期間】

2026年1月～2027年12月

【研究対象となる方】

2026年1月から2027年12月までに、対象となる患者様から採取された体腔液検体を用います。

【研究の目的・意義】

患者様に対して、手術中に行われる細胞診検査を術中迅速細胞診検査とといいます。これは、術後予後の推定や進行期決定、治療法を選択する上で重要な検査のひとつです。腹水や胸水、洗浄体腔液（開腹・開胸した後に、体の中に生理食塩水を入れ洗浄し、回収したもの）から顕微鏡標本作製し、その中に腫瘍細胞があるかどうかを調べます。

この研究では術中迅速細胞診検査において、液状化検体細胞診(LBC)という新しい検査法を用いその有用性を検討します。LBCは、従来の検査法よりも細胞回収量が多く、腫瘍細胞の検出に優れるとされています。

術中迅速細胞診検査においても有用性が明らかになれば、診断精度向上や治療法の適切な選択に寄与することが期待されます。

【研究の方法】

手術中に提出された患者様の腹水・胸水・洗浄体腔液から、従来の検査法と LBC を用いて顕微鏡標本を作製し、細胞を観察します。細胞量や検査所要時間等の結果を比較し、LBC の有用性を検討します。

【研究使用にあたっての個人情報保護】

本研究では個人情報は匿名化されます。また、採取された検体の情報のみ使用しており、対象患者様の特定につながる情報は含まれません。

研究終了後の資料や検体は当院の規定に沿って、研究代表者の責任の下、適切に廃棄いたします。

【この研究に関する問い合わせ先】

〒960-8530 福島県福島市八島町7番7号

福島赤十字病院 病理診断科 担当：石川 梓

電話：024-534-6101（代表）

e-mail：byohri@fukushima-med-jrc.jp